

# とらいあんぐる



2018 年 3 月

一音会ミュージックスクール発行

## 「献呈」

もうご存じの方も多いでしょう。

「ショパンはうす」の2階のリトミックの部屋に、ちょっと目をひく新しいピアノがやってきました。

20番の部屋のピアノは、黄色いピアノです。光沢があるので、20番の部屋の大きな窓からそそぐ光をあびて輝きます。

21番の部屋のピアノは、赤いピアノです。マホガニーと呼ばれる素材です。赤いピアノは猫足で、昔の宮廷のサロンにあったら、にあいそうです。

どちらも、正直なところ、教室にはふつりあいなほど、美しいピアノです。

この2台のピアノは、ある方の手作りです。



「えっ？ ピアノって作れるの？」

そう思われたことでしょう。

もちろん、素人が作れるものではありません。

いえ、素人でなくたって、普通は作ろうなんて考えません。

その奇抜な人は、ニシオさんといいます。

ニシオさんは、ピアノの製造工場で長く学んだ職人さんです。調律師さんでもあります。

長年、「ヘンデルはうす」のピアノの調律をおこなってくれた人です。

ですから、私も教室スタッフの多くも、ニシオさんとは顔なじみです。

しかし、ニシオさんが、とほうもない年月をかけて、ピアノを作っていたことを、つい最近まで誰も知りませんでした。

ある日、「ぼく、ピアノ作ったんですよ」という、突然の一本の電話は、意味がわからなすぎて、私は驚きもしませんでした。

「えっと・・・今、なんていいまし

た？」

「あの・・・ぼく、ピアノ作ったんですよ」

ききまちがえではありませんでした。

「なんで、また！！」

私の驚きをよそに、ニシオさんは、しみじみとした口調で語ります。

「ぼくは、江口先生に献上したいと思い、その一心で、ピアノを作ってきました」

ニシオさんのいう、「江口先生」とは、6年前に亡くなった私の母、江口寿子のことです。

「間に合いませんでした・・・でも気持ちは変わりません。江口先生に捧げるピアノが、やっと完成しました。献上させてください」

ピアノなんて、そんなに簡単に作れるものではありません。

この人は、いったいつから、人知れず、そんなことをやっていたのだろう？

私の心の中の疑問を、ニシオさんも読み取ったのでしょうか。

「江口先生を驚かせたかったんです。だから、ずっと秘密にしていました。いつか、江口先生の目の前に、ぼくのピアノを持ってきて、『これ、ぼくが作ったんですよ』といたかった・・・江口先生の驚く顔を見たかった・・・」

そこからニシオさんの話がはじまりました。

長い年月、ニシオさんのことは、よく知っているつもりでしたが、ニシオさんの話は、私の知らないことばかりでした。

ニシオさんが私の母とはじめて出会ったのは、20年ほど前、ニシオさんがはじめて「ヘンデルはうす」に出向いた日です。

「どうにも調律が安定しないピアノがある。ちょっとみてもらえないか」という他の調律師さんからの電話を受け、ニシオさんは助っ人として「ヘンデルはうす」に来てくれました。

ニシオさんにいわせると、当時、二十代の若者だったニシオさんはしぶしぶだったそうです。

「ちょっと顔だけ出しておこう。次からは、知り合いの調律師に頼んじゃおう」

ニシオさんが、そんなふうに思ったのには、わけがあります。

当時、ニシオさんは調律師さんでしたが、ニシオさんには責任のないことで、所属していた会社を辞める羽目になり、フリーになったばかりでした。そんな矢先、目に病気が見つかり、今後、視力が落ちていくことを宣告されてしまったのでした。

ニシオさんは、いいいます。

「当時のぼくは、自暴自棄でした。目の病気のことが分かり、調律師の仕事も、一生の仕事にならないと知らされました。一生懸命、やってきたのに、なんで?と思いました。そして、自分の人生に絶望しました。もう何もかもどうでもいい。そう思っていました。人生を投げ出していたんです。だから一音会の仕事も、全然やる気がなかったんです。ええ、ぜーんぜん！」

そんなある日、ニシオさんは、私の

母に会います。

私の母は、1級障がい者でした。一歩も歩けませんので、車いすです。手も動きません。足も動きません。実は首も動きませんでした。身体の関節という関節が、自由にならない病だったのです。自力では、何もできない、そんな重い障がいでした。

今になって、ニシオさんは、こう回想します。

「ぼく、はじめて江口先生の姿を見て、すごくあわてました。大きな教室の校長先生ときいていましたから、まさか障がい者だとは思いませんでした。しかも、ぼくがこれまでの人生で出会った誰よりも、重い障がいを持つ人でした」

ニシオさんは、言葉を切り、ふりしぼるようにいいます。

「いったい自分は何を投げやりになっていたんだろう、って、頭をなぐられたようなショックを受けました。この人は、強い痛みをともなう、これだけ重い障がいを持ちながら、これだけ

の教室を作り、多くの先生方、生徒さん方からしたわれている。障がいなんて、まるでないかのように、ほがらかにふるまっている・・・」

その時、ぼうぜんとしていたニシオさんに対し、母は「今日からあなたに、ヘンデルはうすのすべてのピアノを託すわ」と、軽く任命してしまいます。

「ヘンデルはうす」には、41台のグランドピアノがあります。

すべてのメンテナンスは、それなりに大きな仕事です。

1回だけ顔を出して、次からは知り合いをよこすつもりだったのに！

ですが、ニシオさんの口から飛び出した言葉は、ちょっと前のニシオさんには予想がつかないものでした。

「よろこんで！！」

ニシオさんの回想は続きます。

ぼくはその時、思ったんです。「この人を、長くそばで見たい」と。

この人が、この先どう生きるのか、見たいと思いました。

そして、ぼくは人生を取り戻したん

です。

「目が見えないなんて、なんだっていうんだ。見えるかぎり、できることをすべてやろう。今できることを、全部やるんだ。先のことなんて考えない」

ニシオさんは、がむしゃらにピアノの調律に取り組むようになります。

そんな中、1つのアイデアが浮かびます。

「ぼくに人生を取り戻させてくれた江口先生のために、理想のピアノを作って献上しよう」と。

献上したいというニシオさんの思いは、とても強いものでした。



大きな譜面台

でも私は、ニシオさんの胸のうちを知り、「いただくわけにはいかない」と思いました。「買う！」といいはりました。母だったら、ニシオさんのピアノの「最初のお客さん」になることを望んだはずです。

「ゆずる」というニシオさんと、「買う」という私。平行線の末、1台は献上していただく、1台は買う、ということを決着しました。教室に、ニシオさんのピアノが2台も来たのは、そんな理由からです。

ニシオさんは、この何年もの間、何度も目の手術をくりかえしていたとききます。

その長い年月の末、美しいピアノが完成しました。姿だけでなく音もとても美しいピアノです。

また、アップライトピアノは、譜面台が小さいですが、ニシオさんのピアノには、グランドピアノのような大きな譜面台が取り付けられています。楽譜が落っこちることがありません。

譜面台は、簡単に取り外せます。暗

譜をすれば、譜面台を取り外して、弾くことができます。譜面台を外すと、ピアノの前面が開いて、まるでグランドピアノのように、豊かな音が広がります。

あちこちに、ニシオさんの工夫が、こらされています。ピアノに対する深い愛情と、ピアノを弾く人に対する深い愛情が詰まったピアノだと思います。

このピアノを見ると、私は身体の奥から力がわいてくるのです。

母はニシオさんに力を与えたかもしれませんが、今、ニシオさんのピアノに、私は力を与えられていると感じています。 (江口 彩子)



↑ 譜面台を外すと、こうなります

↓ 納品の時そえられたお手紙の抜粋

江口先生のお仕事について、ぼくの知ることなど、ほんの一部でしかありませんが、人間とは、これほどのことができるものなのか、と思うと同時に、レベルの低いピアノを世の中に出しても、誰のためにもならないばかりか、むしろ悪影響でしかないことに、ようやく気づきました。そして、こちらが真剣に取り組めば、不思議と協力者はあらわれるもので、ずいぶん時間はかかりましたが、何とかそれらしいものができたと思います。

ぼくにとって大きな目標である、江口先生の積み上げてきたものの足元にもおよびませんが、今の自分の実力はすべて注ぎ込んだつもりです。

そして最初のピアノが、江口先生の創り上げた、大勢の先生方のいらっしゃる一音会のお教室に入ることは、とても光栄です。 ニシオ

## ◆「ピアノ・トライ」が終わりました

今年最初の大きなイベントである「ピアノ・トライ」と「ル・コンセール」が、すべて無事、終了しました。

今年は、インフルエンザが猛威をふるった時期と重なり、日程をずらして参加してくださった方、練習が十分にできない中、参加してくださった方も多くいらっしゃいました。普段に増して、いろいろな苦難がありました。

しかし、「一音会の生徒さんは、心が強いな・・・」と、あらためて思う瞬間が、たくさんありました。それは本当に嬉しいことでした。

発表の場に間に合わせるために、忙しい中、練習時間を作ったり、忍耐力のいる練習を重ねたり、緊張の中、自分の持てる力を発揮したりする経験は、人を強くする、と思います。

夏には、さらに大きな挑戦の場があります。今年も、すべての生徒さんが、身体とともに、心を大きく成長させることになるでしょう。

## ◆「フォルテの会」が終わりました

副科の生徒さんの発表会である「フォルテの会」を、2月4日（日）に、「ひびきホール」で開催しました。歌あり、バイオリンあり、フルートあり、たいへん楽しい会となりました。ご出演くださった生徒さん、ご家族の方をはじめ足をお運びくださった方々、本当にありがとうございました。

今シーズン、一音会はじめての試みとして、声楽のレッスンを「1レッスン1コイン（30分500円）」というキャンペーンをおこなっています。すでに、多くの方にご利用いただきました。

メロディをうたわせる、あるいはフレーズをまとめる、等の音楽の表現を身に着けるのに、歌を学ぶことは最適です。この点において、ピアノは歌にかないません。

キャンペーンは、4月21日までおこなっています。ピアノの表現にもっと色をつけたい、豊かにしたい、といったお考えをお持ちの方は、声楽のレッスンをおためしになってみてはいかがでしょうか。

合唱のクラスである「うたくらぶ」は、キャンペーン期間以外でも、無料でご体験いただけます。ご興味がおありの方は、お問い合わせください。

## ◆客員教授プリドノフ先生ご夫妻が来日します

すでにお知らせしてきましたように、客員教授のユージン・プリドノフ先生、エリザベス・プリドノフ先生のご夫妻が来日されます。プライベートレッスン、コンサート、オーディションを予定しています。

日程は、以下のとおりです。コンサートの場所は、「ひびきホール」です。コンサートの時間やプログラムにつきましては、追ってお知らせいたします。コンサートの日は、ぜひご予約をあけておいてください。

レッスン	: 3月15日(木)・16日(金)
コンサート	: 3月18日(日)
オーディション	: 3月21日(祝)

### ユージン・プリドノフ & エリザベス・プリドノフ ピアノ コンサート

2018年 3月18日(日)

15:00開演 (14:30開場) ひびきホール

ディジー・ガレスピーの

“マンテカ”によるパラフレーズ N. カプースチン

組曲 第1番

アレンスキー

2台ピアノのためのソナタ へ短調 J. ブラームス





## ◆新年度時間割をお組みしています

新年度変更希望表のご提出に、ご協力をありがとうございました。現在、みなさまからお出しいただいた変更希望表をもとに、4月からのレッスン時間割を作成しております。

曜日、時間帯、コースについて、変更を希望された方の多くには、時間割に関するご相談のお電話を差し上げているところだと思います。少しでも、お一人お一人の生徒さんのご都合にかなう時間割となるよう、努力を続けております。

しかし、物理的にご希望をかなえることが難しい場合もあり、その点は、どうかご理解ください。たとえば、曜日や時間帯を変更される場合、以前からその日時にレッスンを受けていらっしゃる生徒さんが優先されます。そのため、「そのままの担当で」とご希望をいただいても、同じ担当でお組みできるとはかぎりません。

また、お電話を差し上げた時に、お留守だった場合には、留守番電話や FAX やメールで、ご相談内容をお知らせしていますが、もし可能であれば、本部まで折り返しお電話いただければと思います【03-5966-7711】。といたしますのも、同じ時間帯、同じ担当で希望される生徒さんが2人以上いらした場合は、同じ条件であれば先着順となり、先に連絡をくださった生徒さんから決まってしまうと思います。ご面倒かと思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

以前にお出しくださった変更希望表に変更が出た場合にも、なるべく早く、ご連絡ください。



## ◆新時間割を電話でお知らせします

新時間割は、新年度からの担当が、3月30日(金)または31日(土)に、主に電話で、みなさまにお知らせします。

もし、4月3日(火)になっても連絡がいかない場合は、何かの手ちがいが起きているかもしれませんので、お手数ですが、生徒さんのほうから、本部まで、お電話ください。

この期間、ご旅行などでお留守にされる生徒さんは、携帯電話の番号を、事前にお知らせください。こちらからメールやFAXで連絡をさしあげた場合は、ご面倒ですが、受信したことをお知らせいただけますと、たいへん安心します。

ご協力を、よろしくお願いいたします。



## ◆リトミックのレッスン内容

新年度になりますと、リトミックレッスンも新年度カリキュラムになります。未就学の生徒さんのクラスで4月からスタートするのは、「リズムの学校①②」です。

「リズムの学校」はその名の通り、リズムを学ぶための教本であり、「江口メソッド」の中で最重要に位置するものです。ピアノのレッスンでは扱わない教材ですので、かならずご受講ください。

小学生以上のクラスでは、「リトミック・トライ」検定が必須です。「リトミック・トライ」で課題とするリズム表現は、ピアノの演奏に不可欠なものばかりです。お一人お一人、自分のペースで級を合格させていけば大丈夫ですので、じっくり取り組んでください。

ピアノの練習と同様、おうちでも練習するようにすると、はやく合格します。合格の際に渡される級のバッジは、ぜひ全色そろえましょう。

## ◆通信教育もご活用ください

年度の変わり目に、生活が大きく変化する生徒さんも、少なくないと思います。おひっこしにともない、教室に通えなくなってしまう生徒さんもいらっしゃるでしょう。学年が上がって忙しくなり、今までと同じペースで通うことが難しくなる生徒さんもいらっしゃるでしょう。

教室にお通いくださっている生徒さんには、なかなか通信教育についてご案内する機会がありませんが、一音会では、これまでのおけいこが絶対に無駄にならないように、通信の形でサポートさせていただいています。たとえば、絶対音感のおけいこは、完成を待たずに中断してしまえば、それまでのおけいこが、何の結果も生まないことになってしまいます。

通信教育を利用して、それまで培った力を失うことなく、受験の学年を上手に乗り切った生徒さんも、多くいらっしゃいます。

一音会では、以下の4種類の通信教育を、ご用意しています。

**「ミミちゃんクラブ」**：ご自宅のピアノを使った、絶対音感のレッスン

**「ドクターP」**：インターネットを使った、絶対音感のレッスン

**「こんこんクラブ」**：インターネットを使った、ピアノのレッスン

**「あれぐろクラブ」**：郵送でやり取りする、ソルフェージュのレッスン

通信には、通信の良さがあります。

上2つ、絶対音感のレッスンについては、教室にお通いになりながら、絶対音感のおけいこだけは通信で、というようにお受けになっていらっしゃる生徒さんもいらっしゃいます。

お忙しくて、毎週通えない生徒さんが、月に1回、教室にレッスンにいらっしゃり、月に1回、ご自宅でレッスンを受ける、というように、教室と「こんこんクラブ」を、上手に並行させている方もいらっしゃいます。

どんな場合も、お一人お一人のご事情を考え合わせ、一番、ご負担なく、おけいこを続けられる形を、いっしょに考えていきたいと思っております。

ご興味がおりの方は、ぜひ資料をご請求ください。本部でも、ご相談に乗らせていただきます。

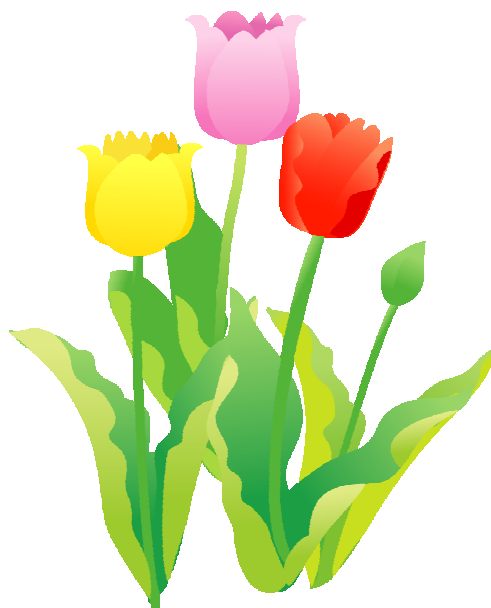
## ◆新年度のレッスン開始日

新年度最初のレッスン日は、次のようになります。  
お間違えのないよう、ご注意ください。

月曜日・・・・・・・・・・ 4月 9日  
火曜日・・・・・・・・・・ 4月10日  
水曜日・・・・・・・・・・ 4月11日  
木曜日・・・・・・・・・・ 4月12日  
金曜日・・・・・・・・・・ 4月13日

土曜日（毎週）・・・・・・ 4月14日  
土曜日（偶数週）・・・・・・ 4月14日  
土曜日（奇数週）・・・・・・ 4月21日

日曜日（月1回）・・・・・・ 4月15日  
日曜日（月2回）・・・・・・ 4月 8日  
日曜日（月3回）・・・・・・ 4月 8日



みなさま、良い春休みをお過ごしください。新年度も、引き続き、どうかよろしくお願いたします。

\*\*\*\*\*  
\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp) 電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。(今年度より、月曜日の夜に行なっております。よろしくお願いたします)

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。